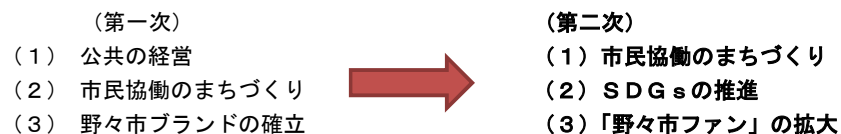


基本姿勢



1. 基本姿勢

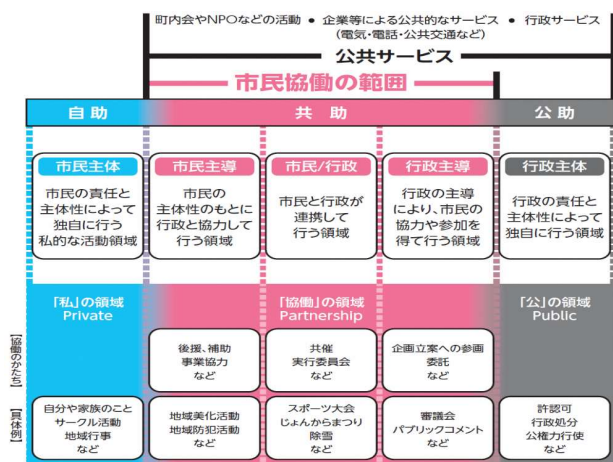
(1) 市民協働のまちづくり

社会環境が変化し、社会の抱える課題が複雑化・多様化する中で、市民一人ひとりの生活の質を高め、より良い野々市市を次の世代に引き継いでいくためには、市民と行政、民間事業者等が対等な立場に立ち、協働でまちづくりを進めていくことが必要です。

まちづくりに関わる活動は、市民が独自に行う私的な活動（自助）と、行政にしかできない公的なもの（公助）の間に、市民どうしの助け合いによる活動を行政が支援したり、行政に市民が参画してより良いものにしたたり、それぞれの活動の性質に応じて、立場や役割を柔軟に調整しながら進めていくものがあります。この自助と公助の間にある活動や取組を野々市市では「共助」と捉え、自助・共助・公助の適切なバランスのもと、協働によってまちづくりを進めていくことをめざしてきました。

この計画では、市民協働の考え方とその必要性をより多くの市民に知ってもらい、幅広い分野において協働の取組が行われ、市民と行政との間で定着していくことをめざします。

図表 1 自助・共助・公助と公共サービスの範囲の考え方



(2) SDGsの推進

SDGsは、17のゴールに示されるように様々な分野にわたっており、ソフト・ハードといった区別に関係なく、あらゆる分野で「誰ひとり取り残さない」という考え方のもと、持続可能な社会の実現に向けた取り組みが求められます。

野々市市は、まちづくりにおけるエネルギーのグリーン化や、社会におけるジェンダー平等の実現など、市が取り組む様々な分野において、SDGsにつなげる視点を持ち、持続可能なまちづくりの実現を図ります。

(3) 「野々市ファン」の拡大

近年、移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる「関係人口」が注目されています。

野々市市は、子育て世代や複数の大学の立地に伴う若者の転入などにより、人口増加が続いています。しかし、いずれは野々市市においても、人口増加のペースが緩やかになり、長期的には横ばいから減少になっていくものと考えられます。また、市内の大学で学んだ学生の中には、全国や世界に活躍の場を求めて野々市市を巣立っていく人も多くいます。

転入してきた人たちに、野々市市に愛着を持ってもらい、いつまでも住み続けてもらうことも大切ですが、たとえ野々市市から巣立つことになった人でも、様々な機会を通じて野々市市を応援してくれる「野々市ファン」としてつながりを持ち続けることで、これからの野々市市においてとても心強い存在になります。

また「野々市ファン」には二つの意味が込められています。一つは、野々市に関わりを持ち、応援してくれる人を意味する「FAN」であり、もう一つは楽しいという意味を表す「FUN」です。野々市は何か楽しい、野々市に来たら楽しいことがたくさんある、と感じてもらえるようなまちづくりを進めていきます。